

編集後記

吉備国際大学研究紀要第26号をお届けいたします。

電子ジャーナルとしての原稿募集から発行までの手順がほぼ定着しまして、本号は大きなトラブルもなく無事年度内に発行ができました。関係の皆様のご協力とご努力の結果と存じます。篤く御礼を申し上げます。

何度か過去の編集後記に書かせていただきましたが、紀要は厳しい規則に縛られず比較的自由に研究成果を世に問えるのを特徴といたします。反面、査読者がいませんので、執筆者自らが論文に関わる全責任を負い、著作権も執筆者に属します。編集委員会が原稿に目を通すことはありません。またいわゆる「コピペ」のチェックもいたしません。書かれた原稿はそのまま世に出ます。一方で電子化により投稿論文は大学のリポジトリを通して、大きく言えば全世界に公開されますので、冊子体の時に比べ、比較できないほど多くの人の批判の眼にさらされていることを自覚しなければなりません。たとえ単純な誤字、脱字でもあつという間に多くの人に「見られてしまう」ことになります。

従いまして、紀要の学問的レベルや文章の完成度を維持し、高めるためには、査読誌への投稿以上に、執筆者一人ひとりが、論文の文章や学問的内容の精度を可能な限り高め、剽窃や二重投稿と疑われる内容がないか厳しくチェックし、投稿手順のモラルを守って、執筆者自身が紀要を「作り上げてゆく」気持ちを持っていただくことが本紀要の発展にとりまして肝要なことかと考えます。これらのことにご配慮いただき、本紀要を益々盛り上げていただきますようお願いいたしまして、編集終了の感想とさせていただきます。

図書館運営・研究紀要編集委員長 古田 知久

吉備国際大学図書館運営・研究紀要編集委員会

委員長 古田 知久 (心理学部)

委員 姜 明 求 (社会科学部)
水 谷 雅 年 (保健医療福祉学部)
元 田 弘 敏 (保健医療福祉学部)
高 田 康 史 (心理学部)
平 見 勇 雄 (アニメーション文化学部)
金 沢 和 樹 (地域創成農学部)
金 沢 真 弓 (外国語学部)
吉 井 敦 子 (短期大学部)